

# Chopin

ショパンとそのルーツ—— ポーランド音楽の夕べ



2015年10月13日 17時開演 (16時30分開場)  
大正大学 集鴨校舎 礼拝堂

● ワルシャワ国立歌劇場管楽アンサンブルによるショパンの音楽のルーツ

近世ポーランドの作品 (ラドムのココワイ、ココワイ・ゴムウカなど) 民衆歌、聖歌など

● ピアノによるポーランド音楽の調べ

ショパン: マズルカ作品 63 (3曲)、スケルツォ第1番、歌曲より3曲、英雄ポロネーズ、その他

オギンスキ: ポロネーズ「祖国よさらば」

パデレフスキ: 「幻想的クラコヴィアク」

(曲目は変更されることがあります)

■ 出演

ピョートル・ヴァヴレニク (ワルシャワ国立歌劇場管楽アンサンブル首席トロンボーン奏者)

管楽アンサンブル “トロンバティスティック”

草野由美子 (ピアニスト)

白木太一 (大正大学教授、司会・解説)

■ 主催: 大正大学

■ 後援: 豊島区、駐日ポーランド共和国大使館

ポーランド広報文化センター

NPO 法人フォーラムポーランド組織委員会

入場無料



- 大正大学アクセス
- J R: 埼京線「板橋」駅下車徒歩10分、山手線「集鴨」駅下車徒歩20分
  - 地下鉄: 都営三田線「西巣鴨」駅下車徒歩2分
  - 都 電: 荒川線「庚申塚」駅下車徒歩5分
  - バス: 都営バス「堀切」または「西巣鴨」下車徒歩2分  
(池袋東口から浅草門、浅草寿町、西新井駅、とげぬき地蔵前行き)



# Chopin

## ショパンとそのルーツ——ポーランド音楽の夕べ

ショパンはポーランドで最も傑出した作曲家の一人であり、日本でも全世界でも非常によく知られた人物です。彼は230以上もの作品を書き、そのすべてにピアノが係わっています。彼は19世紀のロマン主義の時代に生き、作曲をしましたが、その時期のポーランドは国土がロシア、プロイセン、オーストリアの三国に分割されて存在していませんでした。この辛苦の状況は、同時代の芸術家たちに多大な影響を及ぼしました。彼らは、ポーランド語、ポーランド絵画、ポーランドの詩歌や音楽が確固として存在していることを全力で世界に示そうとしました。

ショパンの芸術は芸術におけるそのもっとも美しい例です。彼の音楽の中にこそ、彼の天性によって再創造された伝統的ポーランド音楽の影響を見て取ることが出来ます。

今宵は、ショパンとそれ以前、14世紀末以降19世紀に至るポーランドで聴かれた音楽を皆さんに紹介します。若きショパンもこれらの音楽の多くを教会や居酒屋や村の遊びで耳にしたことでしょうし、それらは彼の音楽の靈感の源にもなったことでしょう。我々は、今宵のコンサートが彼の素晴らしい創作をよりよく理解し、体験するための手助けになることを願って止みません。



### ピョートル・ヴァヴレニク

ポーランド国立ショパン音楽アカデミー（現ショパン音楽大学）卒業。1987年からワルシャワ国立歌劇場管弦楽団の首席トロンボーン奏者。ルネサンス・バロック期の金管楽器で当時の楽曲を演奏する団体、トロンバスティックの創設者兼監督を務める。当団体は数点のCDを製作しており、最新盤「バタリア」はポーランドで権威のある賞、フリデリック2010（ポーランド・レコードアカデミー主催）を得ている。この団体はヨーロッパの多くの古楽フェスティバルにも出演し、青少年コンサートで若者への音楽振興にも努めている。



### 草野 由美子

国立音楽大学ピアノ科卒業後、ポーランド政府給費留学生として1989～1991年ポーランド国立ショパン音楽アカデミー（現ショパン音楽大学）に留学、研究課程を修了。2002年から2004年まで、東京外国語大学の研究生として在籍。ポーランド文化研究室（関口時正教授）でシマノフスキの研究に取り組み、研究論文「シマノフスキと《ハルナシエ》」を執筆。コンサートでは、ショパンのみならずシマノフスキを中心としたポーランドの作曲家の紹介に力を注いでいる。今野信子、故宅孝二、故細川哲郎、カジミェシュ・ギェルジヨド、ラミロ・サンジネス、各氏に師事。